すり鉢池の浚渫

2022 年 4 月 03 日
名東自然倶楽部
http://sizen.ciao.jp/index.html

すり鉢池の掻い掘りに伴うヘドロの除去の為に、2021 年度、公益信託 **オータケ記念愛知県自然環境保護基金**より、助成金を頂きました。
http://sizen.ciao.jp/news/news210322.pdf

2021 年 11 月 29 日

業者に依頼して、強力吸引車を使用　池底に溜まっていた柔らかいヘドロの除去を行いました。ヘドロの量が多く、又、水を吸う量が予想以上に多かったようで、全てのヘドロの除去は出来ませんでしたが、長年溜まったヘドロ、且つ人力では不可能な部分を除去することが出来ました。

強力吸引車
緑地の中を走る必要があるため、小型の物しか使用できませんでした。

ヘドロの吸引開始

2 人でヘドロをかき寄せ、ゴミが詰まら無いように取り除いて行きます。

吸引したヘドロは廃棄物にならないように緑地内で処理しました。
すり鉢池から少し離れた草地と梅林に流しました。
事前に貴重種の動植物が居ないことを確認しています。

（昔は、溜池のヘドロは有機物を多く含むため、畑や田んぼの地力回復に使われていました。）

ヘドロの流し込み
最初、水分が多く、ヘドロの量が少なかったが、この後改善されました。

名東土木事務所と、流れ状態を確認しつつ、流し込む位置を変えて全て流しました。

何往復も繰り返しました。

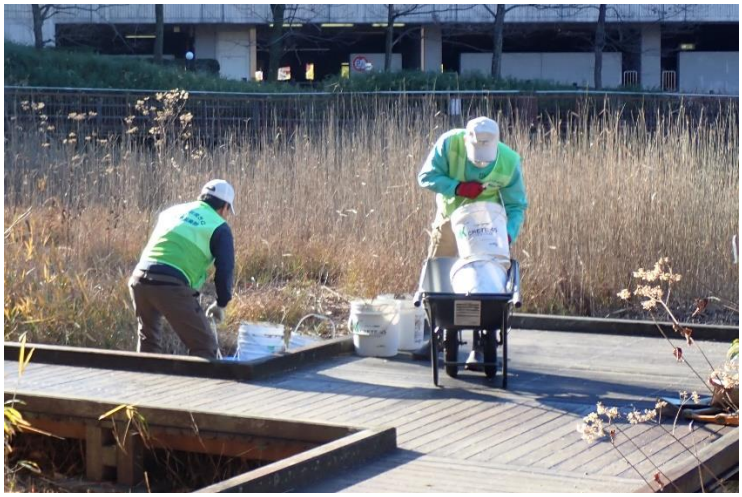
池干し時に捕獲しきれなかった生物を同時に捕獲しました。

流したヘドロの上に猪高緑地の谷地田で採れた藁を乗せ、臭い防止と景観の改善を図りました。
結果的に嫌な臭いも無く、心配していたクレームも全くありませんでした。

2022 年 1 月 12 日

人力による浚渫を行いました。
業者による浚渫と同様、**オータケ記念愛知県自然環境保護基金**より頂いた助成金にて、二輪車、ソリを購入して、泥の搬送に使用しました。

名東土木事務所に頂いた使用済みのコンクリートの容器に泥を入れ、ぬかるんでいる池の中はその容器をソリに乗せて搬送しました。



二輪車を使うことが出来る散策路は、容器ごと乗せ替えて、廃棄場所まで搬送

オータケ基金の助成金で、
4台もの二輪車を購入して使用しましたが、意外にもこの工程が律速段階になってしまいました。

掘るとき、葦の根に苦戦しました。

溝状に浚渫しました。

6月から開始予定の、ウシガエル・アメリカザリガニ捕獲の時、アナゴ罠による効率的な捕獲を図るためです。

ウシガエルやアメリカザリガニは池干し時にほとんど捕獲出来ないことが分かって居ます。又、池干し時、天敵になる特定外来生物のブルーギルなどを捕獲するので、池干し後、爆発的に増える恐れがあります。

人力による浚渫の泥は固体で葦等の根が絡んでいるので、伐った竹の集積場所に廃棄しました。春になれば、草が生えて固定されると思います。

今後

溜池は放置すると埋まって行く運命にあります。今後も、水位が下がり、マムシなどの活動が無い機会をとらえて、人力による浚渫を継続する予定です。